

## みんなで作ろう！防災かまどベンチ

防災かまどベンチ実行委員会 委員長 窪井紀子

### 1.活動方針・目的

地震や台風などの災害に備え、万が一被害にあった時も、住民の手で「防災かまどベンチ」を使って食事を供給できることにより落ち着きを取り戻し、すぐに生活再建が出来るための減災力を養う。

### 2.活動内容

地域住民・行政・学校・企業・ボランティアなどが協働して、平群町災害時指定避難所に指定されている公共施設など15箇所、5カ年計画で製作する。

### 3.他の活動団体の参考となる事例

◆「防災かまどベンチ」の意義を広く知ってもらうために、広報活動に努めた。

(例)平群町自主防災連絡協議会総会、平群町総代・自治連合会会議

市民生活協同組合ならコープ総代会など。

・全自治会長に通知したことから、自治会単独で製作する事例(2箇所)が生まれた。

・平群町にある「ならコープ」の店舗に製作したことにより、県内のその他の店舗にも設置の広がりが見られる。

「防災かまどベンチ」の費用は各種助成金を申請する他、「住民が作る住民のための防災かまどベンチとして、住民からの募金を期待したが、小額に留まった。額の多少ではなく、自分もレンガ1個分を負担して防災・減災活動に参加したと共感してもらうための仕掛けが必要である。

「防災かまどベンチ」を作る過程で、異なる主体が集まって一つのものを作りあげることにより地域の連帯感が生まれた。その連帯感は安心して安全なまちづくりを自分たちの手で進めようという意欲につながっている。

行政から、町長や職員が製作に参加したことにより、住民や実行委員が災害に強いまちづくりに貢献できる喜びを感じる事が出来た。

完成後は炊き出し訓練などに利用することによって地域全体で交流が深まり、自然に防災についての意識が高まる事が期待できる。

### 4.今後の課題等

◆26年度も3箇所の指定避難所に製作していく予定。製作は、その避難所に避難する対象の自治会住民と防災かまどベンチ実行委員が協働して行うが、その仕組みを理解してもらうことが難しい。より効果的な方法を模索していきたい。

◆自治会長の防災意識の程度によって、自治会内への周知が左右されると思われるので、粘り強く自治会長に理解と協力をお願いしていく。(1年交代が多いため)

◆長期に渡る活動なので、モチベーションを維持し、後継者を育て、防災・減災の意識を次世代につなげていく工夫が必要である。

ブログ「みんなでつくろう！防災かまどベンチ」

<http://aoniyoshi2009.blog63.fc2.com/>



## 防災かまどベンチとは

- ・ レンガ囲いの土台の上に木製の座板を乗せたもの
- ・ 通常はベンチとして利用
- ・ 災害時には「かまど」として炊き出しなどに利用する  
(1基で100人前の炊き出し可能)



## 設置の目的

地震や台風などの災害に備え、大切な命を守り  
できるだけ被害を減らし、万が一被害にあった  
時にすぐに立ち直る力を養うことを目的とする。

(内閣府発行の情報誌「ぼうさい」より)

自助・共助を目に見える形にして、防災意識の  
向上を図る。

## 取り組むきっかけ

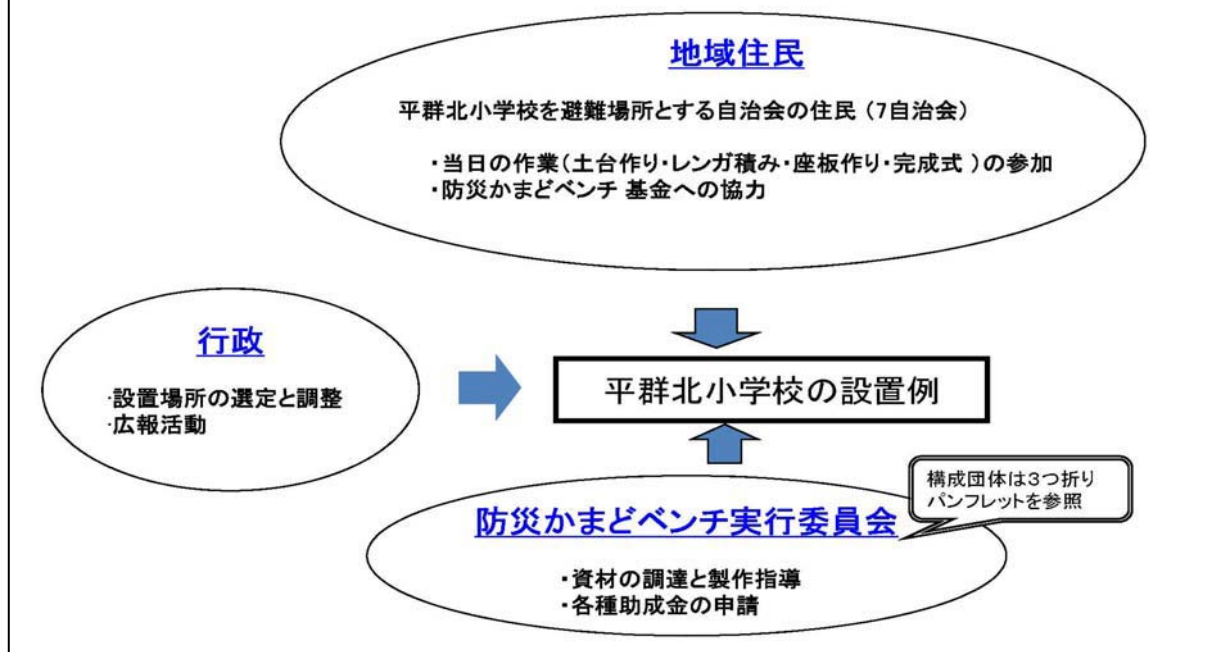
- ① 「協働と参画のプラットフォーム通信」56号 (H24年4月 神戸市発行の情報誌) の「防災かまどベンチ」の記事に共感
- ② (実行委員長の体験より) 福島県南相馬市の被災者の方から、被災後、電気やガスが無い状況の中で、庭に穴を掘りブロックを立てて火をおこし、ご飯やおかずを作った話を聞いた



- ・ 災害時の炊出しには「かまど」が役に立つと確信！
- ・ 平成25年 防災かまどベンチ実行委員会を立ち上げ

## 実行委員会の協働のしくみ

・地域住民・行政・学校・ボランティアなどの協働で取り組む

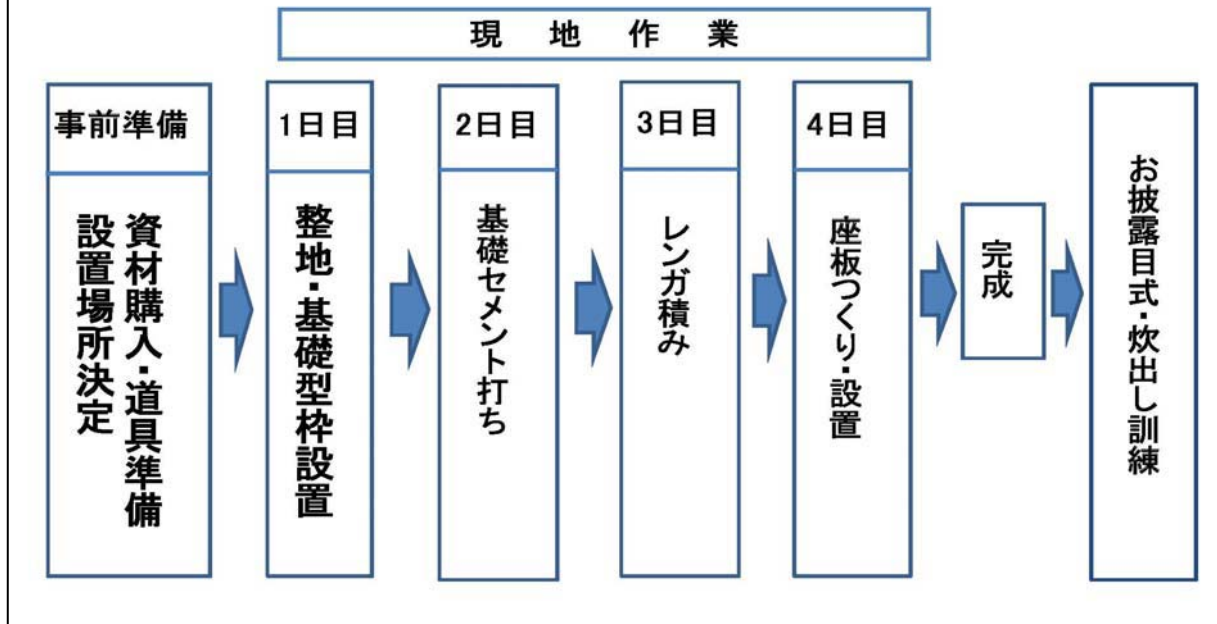


## 実施計画について

- ・ 設置場所は平群町が指定する「災害時指定避難所」15箇所など。（3つ折りパンフレットを参照）
- ・ 製作は地域住民・行政・各種団体・学校・企業などが協働で取り組む。
- ・ 資材費は1基約35,000円（平群北小学校製作実績費）
- ・ 制作費用の調達（資材・作業用の道具など）
  - ・ 民間の助成金を申請 ・「防災かまどベンチ 基金」の設置

# 防災かまどベンチ製作工程

半日・4日作業



## 期待できる効果

- 被災者自身の手で大量の食事を供給できることにより精神的な安定が得られ、復旧への意欲につながる。
- 平常時の防災訓練に活用することにより、地域全体で交流が深まり、防災についての意識向上に役立つ。
- 協働することにより、行政だけでは解決できない課題を住民も共有して、一緒に安全安心なまちづくりが出来る。

## 新聞報道



他の町から見学や問い合わせ。平群町内の2自治会が単独で製作する例につながった

- ・製作希望の団体には製作一式の情報提供と指導者の派遣を行って、各地に広めたい。
- ・平成26年度も、3ヶ所の「平群町災害時指定避難所」に製作予定。



ならコープの店舗「ディアーズコープたつたがわ」の完成お披露目式にて、みんないい笑顔！